

版画と出版で知る書物文化



ひろしま美術館で開催される特別展「版ー技と美の世界ー」にちなみ、印刷技術、版画の技法、出版文化、書物文化などに関する講座を開講します。

日 時 平成26年8月23日・8月30日・9月6日(土) 10:00～12:10

会 場 サテライトキャンパスひろしま (広島市中区大手町1丁目5-3 県民文化センター)
※9月6日のみ会場が県立広島大学となります。

8月23日 (土)	10:00～11:00	版画の世界あれこれ 中国の版画を知ろう	県立広島大学人間文化学部教授 丸山 浩明
	11:10～12:10	日本版画の世界	ひろしま美術館学芸部長 古谷 可由
8月30日 (土)	10:00～11:00	古活字版の世界 ー日本の商業出版の始まり	県立広島大学人間文化学部教授 樹下 文隆
	11:10～12:10	銅版画の世界	ひろしま美術館主任学芸員 水木 祥子
9月6日 (土)	10:00～11:00	近世広島の本屋と出版	県立広島大学人間文化学部教授 西本 寮子
	11:10～12:10	現代の版表現	ひろしま美術館学芸員 森 静花

募集人数 80名程度

受講料 無料

対 象 どなたでも

申込方法 往復はがきの往信面の裏に①郵便番号、②住所、③お名前、④ふりがな、⑤電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、お名前(〇〇〇〇)様をご記入の上、平成26年8月7日(木)(消印有効)までに次のところにお送りください。

〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「版画と出版講座」係
電話(082)251-9534 (平日9:00～18:00)

受講案内は締切日以降にお届けします。なお、申込多数の場合は抽選となることがあります。
※申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

主 催 県立広島大学地域連携センター・公益財団法人ひろしま美術館



「版画と出版で知る書物文化」概要

丸山浩明「版画の世界あれこれ 中国の版画を知ろう」

ものに刻む歴史を振り返り、木版の伝統的な特徴や形式を、中国を例にお話しします。版画文化を支える地域による差異や時代の要求による美の追究など、版面に求められた中国文化の表象を考えましょう。日本との共通点相違点を探る入り口になるはずです。

古谷可由「日本版画の世界」

日本の浮世絵版画は、日本独自の芸術として高い評価を得ています。近代以降日本国内においても見直され、またさまざまな技法と融合しながらも日本独自の版画文化を生み出しました。西洋版画との関連でこの日本版画について考えていきます。

樹下文隆「古活字版の世界ー日本の商業出版の始まり」

豊臣秀吉の朝鮮侵略によりもたらされた銅活字による出版技術は、木製活字を組んで印刷する技法を生み出し、日本の商業出版の出発点となりました。書物文化の発展に伴いわずか50年程で製版本に主流の座を譲って消滅した古活字版の世界を紹介します。

水木祥子「銅版画の世界」

15世紀にヨーロッパで誕生した銅版画は幕末期に日本にもたらされ、多様な展開を見せていきます。版を直接刻む直刻法と特殊な薬剤を使って版に凹みをつける腐食法がある銅版画ですが、そのさまざまな技法を紹介するとともに、西洋の伝統と日本独自の銅版画表現を紹介します。

西本寮子「近世広島の本屋と出版」

印刷技術と商業出版が出会った江戸時代には大量の書物が流通するようになりました。三都から地方都市へと広がり、広島城下でも出版を手がける本屋がみられるようになりました。城下の本屋の活動と出版の一端を紹介します。

森 静花「現代の版表現」

古くから版画との縁の深い国、日本における現代の作家たちは、その伝統をそれぞれが認識した上で、新たな表現に挑戦し続けています。印刷物としてもはや当たり前のように「版」が使われる現代に生きる、作家たちの姿勢と、その表現方法を紹介します。

